

筆者：杉山由美子

関連テーマ：[\[オススメ本\]](#)[\[その他\]](#)



「英語は小さいときから習っても身に付くわけではありません」。
小学校英語必修に断固「NO」という、英語の達人による見識です。

私立小学校では英語を教えているのに、私立小学校出身の子たちの英語力が 中学校から教わった子よりも優れているというデータは、ありません！

ペラペラしゃべれるはずの海外帰国子女たちの大多数が、英語を学ぶ時期は「母語(日本人なら日本語)が確立してからでいい」と答えているのです。

小学校英語の必修化が目前になってきた今、同時通訳者として、そして現在 立教大学大学院教授という本物の英語を知るこの『[危うし！小学校英語](#)』の著者は、数々のデータをもとに反対をしています。

目からウロコのことばかりでした。私も何を隠そう中学校から大学まで英語 を学んできたのに、外国に行けばだんまりを決め込んでいます。だから「英語をしゃべれるようになるには早いほうがいい」「しちめんどうくさい文法なんか役に立たない」という世間に流布する言説をうのみにしていました。

でも違うのですね。子どものころ少々しゃべれても国際社会で通用するよう な英語を使えるようにはなりません。日本語でしっかり考えられる人だけが、英語の文法を学んだうえで国際社会に通用する英語を使えるようになるので す。

著者は、この『[危うし！小学校英語](#)』の中で、小学校ではしっかり国語を学ばせ、中学校から週 6 時間の英文法と 良い英語の文章を読むことに費やすべきだと提案しています。なるほど、と思いました。

ぜひ読んでおきたい、子どもの教育・しつけ・進路決定などに役立つ一冊